

執筆担当	所在地	畜種	キーワード
奥羽牧場 衛生課	青森県 七戸町	肉用牛	肥育牛出荷、衛生対策、ヨロイ対策、飼養衛生管理基準

奥羽牧場における肥育牛の出荷にかかる衛生対策

～衛生管理区域外への病原体の拡散防止～

1. はじめに

(独) 家畜改良センター奥羽牧場では、平成 20 年より黒毛和種の肥育に取り組み、現在は約 450 頭の肥育牛を飼養し、仙台市中央卸売市場食肉市場及び東京都中央卸売市場食肉市場に年間約 225 頭を出荷しています。

【写真 1】

奥羽牧場の肥育牛



2. 衛生管理区域外への病原体の拡散防止について

国が定める飼養衛生管理基準では、農場に設定された衛生管理区域内への病原体の侵入防止に取り組むだけでなく、衛生管理区域外への病原体の拡散防止に取り組むこととしています。

そこで、当场で飼養衛生管理基準等に基づき取り組んでいる、肥育牛の出荷にかかる衛生対策のうち、以下の 2 例についてご紹介します。

① 家畜の健康状態の確認

出荷先であると畜場は、食用に供する目的で獣畜をとさつし、又は解体するために設置された施設です。

当场から肥育牛を出荷する際は、直近 3 か月間の病歴と投薬歴を確認するとともに、生体出荷制限期間（投薬した薬の休薬期間等をいいます。）にあたらない

いことを確認し、食用として流通する際の安全性を確認しています。

また、日頃の健康観察に加えて出荷 1 週間前と出荷当日にも健康状態の確認を行い、体調に問題のない肥育牛を出荷しています。

② 家畜に付着した汚物等の除去

肥育期間中の牛は、飲水や採食後は、一日の大部分を写真 2、3 のように寝そべったり、座ったりしているので、図 1 の部分に付着した糞便が固まったものができます。これを「ヨロイ」と言います。「ヨロイ」の発生は、糞便で汚れた牛床に牛が寝そべってしまうことが一つの起因と考えられます。そのため、牛床を常にきれいにしておくことが一番の対応策ですが、十分な飼養スペースを確保することも発生の低減につながります。当场でも牛の十分なスペースを確保するように管理をしていますが、牛床が湿り易い時期等の要因によっては、どうしても「ヨロイ」の発生がみられます。

【写真 2】

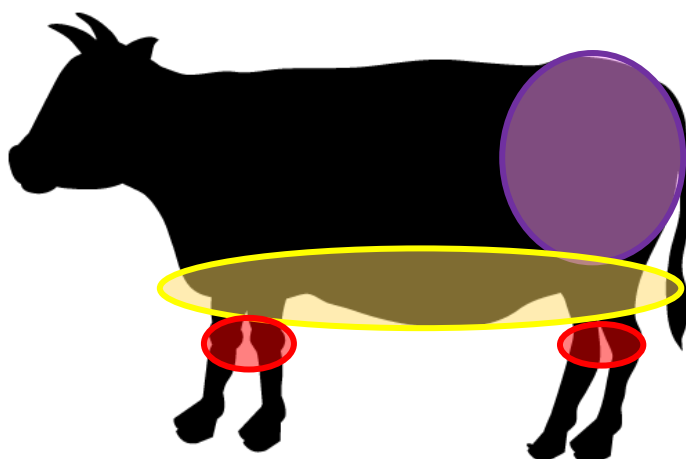
牛房でくつろぐ肥育牛



【写真 3】

牛房柵を枕にする肥育牛

【図1】 ヨロイが付きやすい部分



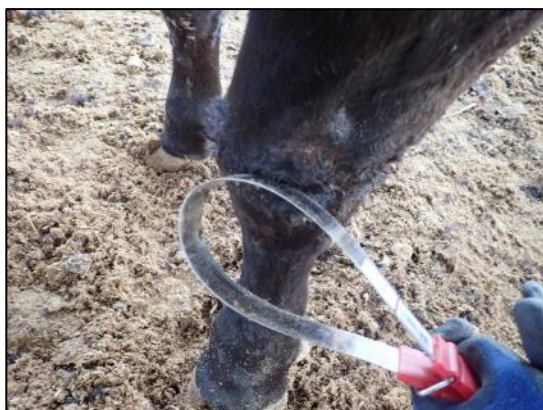
「ヨロイ」は糞便が固まったものなので、大腸菌等の細菌が多く含まれており、カンピロバクターや腸管出血性大腸菌 O157 などの食中毒の原因菌が含まれている可能性もあります。そのため、「ヨロイ」が付着した状態で肥育牛をと畜場に出荷することの無いように、十分な配慮が必要です。なお、と畜場でも肥育牛の出荷者に対して、「ヨロイ」の除去をしてからの出荷を指導されています。

当场では、肥育期間中、定期的に金ブラシや毛刈りバリカンを用いて体表に付着した「ヨロイ」を除去しています（写真4、5）。

【写真4】 金ブラシによる除去



【写真5】 毛刈りバリカンによる除去



【写真6】 「ヨロイ」除去前

(写真のように広範囲にヨロイが付着してしまっている場合には、バリカンで毛ごと刈るのが容易で、牛体も傷つけません。)



【写真7】 「ヨロイ」除去後



また、出荷の決まった牛は、出荷日のおよそ1か月前と2週間前に必ず「ヨロイ」の付着状況を確認し、付着があるときは除去するとともに、敷料の状態をみながらお

が粉を増やし、「ヨロイ」の再発を予防することとしています。さらに、出荷当日には、と畜場より示された出荷にかかる基準等を参考に「ヨロイ」の除去状況の最終確認をした上で、問題のない牛を家畜運搬車に積み込むこととしています（写真8）。事前に対策をしておくことで、出荷当日にはほとんど「ヨロイ」は付着していない、あるいは付着していても金ブラシで容易に除去することができます。なお、脇の下や胸垂といった陰になる部分は見逃しやすいので、念入りにチェックをするようにしています。

【写真8】 出荷当日の確認



3. 最後に

今回は出荷にあたっての取組についてご紹介しましたが、「ヨロイ」は体表に糞便が付着した時が最も容易に除去できます。

日常の飼養管理の時や、削蹄や体重測定の枠場に入れた際にブラッシングをすることで、過度な「ヨロイ」の付着防止にもなります。このような日常の取組が飼養衛生管理基準の遵守や安全安心な食肉生産につながりますので、皆さんも意識して取り組んでみてはどうでしょうか。

（以上）